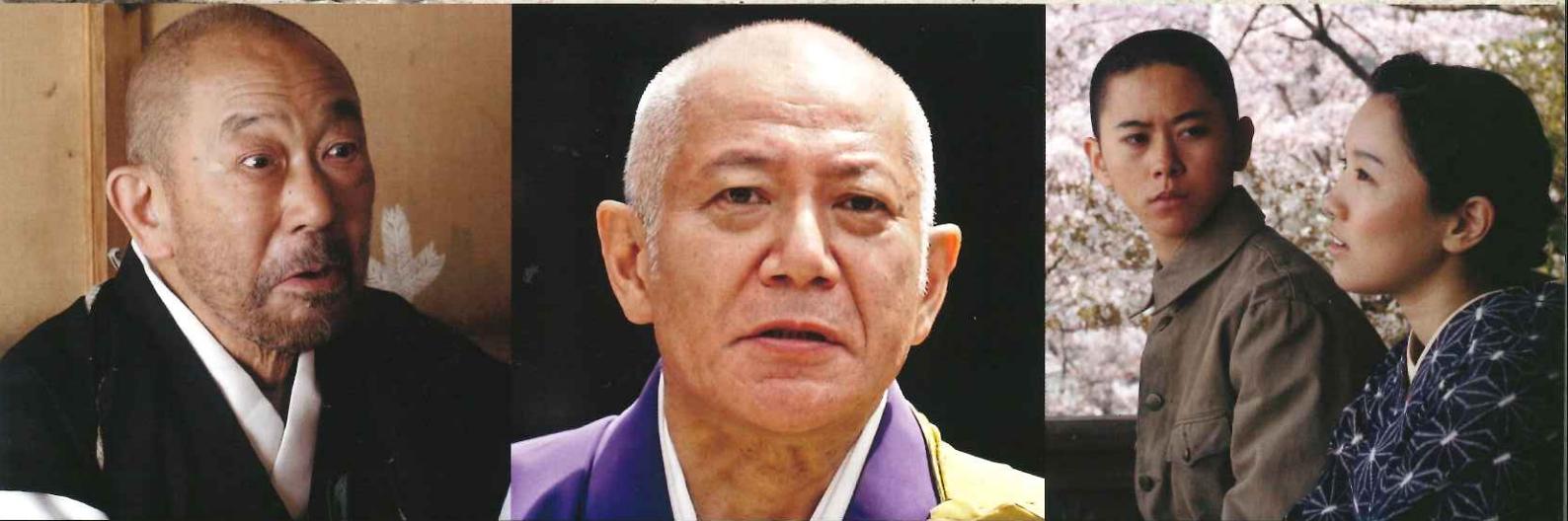


明日へ

— 戦争は罪悪である —

ぼくに落語を
教えてくれた和尚は、
「戦争で、
人殺しだけはするな」と言つた



老いた落語家が語り継ぐ、叛骨の僧侶の言葉

中原 丈雄

小倉 レイ 松田 優佑 小酒井 圓葉 奥山 琴夏 石住 昭彦
江村 修平 上杉 陽一
関貴昭 東房 大河 谷川 清美 西村 諭士 森崎 清
小倉 一郎（特別出演） 森澤 匠晴 山中 雅樹

上條 恒彦

勝部 演之 渡辺 穎 松本 ふみか

岡本 富士太

eiga-ashitae.com

【監督】藤嘉行

【企画・製作】小室皓充 【脚本】土屋保文
【音楽監督】遠藤浩二 【撮影】瀬川龍（J.S.C.）
【照明】佐藤宗史 【録音】始田秀彦 【美術】中谷暢宏
【助監督】桑原昌秀 【編集】川瀬功（J.S.E.） 【記録】吉田純子
【メイク】葉山三紀子 【スタイリスト】村島恵子
【ラインプロデューサー】須永裕之

【製作】日本の青空シリーズ

『明日へ—戦争は罪悪である—』製作委員会
(小室皓充 滝元将 一芝竹夫 平野寛)

映倫
EIRIN

©日本の青空シリーズ「明日へ—戦争は罪悪である—」製作委員会



「明日へ—戦争は罪悪である—」上映と鈴木君代トーク＆ライブ

日時：12月4日（月） ①午後2時～ ②午後6時30分～

会場：岐阜市メディアコスモス・みんなのホール（岐阜バス・メディアコスモス前・市民会館前）

上映協力券：1,200円（高校生以下1,000円） お問合せ：岐阜教育映画センター（TEL058.215.9671）

訂正追記
場所：みんなのホール
チケット前売り券 前売り券：1,000円
取り扱い：NPO法人なじみのふるさと
担当：三輪 電話番号090-1568-2913
前売り券：1,000円

仏の教えの第一は「不殺生」 人の命を損なう戦争は罪悪である

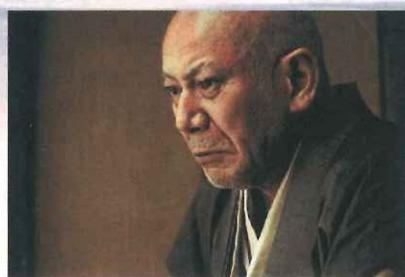
◆あらすじ

2015年の秋、安保法案に反対する国会前のデモの様子がテレビのニュース番組で放映されている。長年、高座で反戦平和を語り続けてきた落語家、金山亭我楽こと尾藤純次（岡本富士太）は、98歳になった今、老人ホームで居ても立ってもいられず車椅子でデモに参加しようとするが、介護士の由希奈（松本ふみか）に外出を止められる。戦争を知らない世代の由希奈に、純次は嘸家への道を開いてくれ師匠とも仰いだ一人の僧侶・杉原良善（中原丈雄）のことを語り始める。

1932（昭和7）年、日中戦争から太平洋戦争に向かう戦争の時代。瀬戸内海に浮かぶ小島に暮らす13歳の純次（松田優佑）は落語好きな少年だった。純次の父親は落語よりも学校の勉強に専念するよう諭してもらおうと良善の寺を訪れる。ところが良善は、純次に落語をやるよう逆に背中を押してくれる。やがて東京に出て落語家になった純次（小倉レイ）は、20歳となり出征の日を迎える。島での出陣式で、良善は突如「戦争は罪悪で人類に対する敵、すぐにでも止めたほうがええ」と村人を前に語り始め、純次たちを驚かせる。それまで戦争に協力する説教を語っていた良善のこの変化には何があったのか……。

●かいせつ

劇映画『明日へ—戦争は罪悪である—』は、かつて国を挙げ、国民を挙げて戦争に突き進んでいった第二次世界大戦中、宗門からも懲戒され、特高警察に逮捕されながらも、「仏教の教えの第一は不殺生、人の命を損なう戦争は罪悪である」との主張を曲げなかった実在の僧侶たちをモデルに、戦後、その僧侶の生き方に影響を受けた老落語家が戦争を語り継ぐ物語として創作したもの。監督は、橋爪功主演『天才刑事・野呂益六』（ABC）シリーズなど、テレビドラマで活躍中の藤嘉行。主演はNHK連続テレビ小説『花子とアン』や大河ドラマ『真田丸』などの中原丈雄。上條恒彦、岡本富士太、小倉一郎らベテランが若い出演者らの脇をかためている。



明日
戦争は罪悪である

戦争への悪縁を潰しましょう

花園大学総長 河野太通

1930年、大分県生まれ。龍門寺（兵庫県姫路市）住職。
臨済宗妙心寺派前管長。全日本仏教会元会長。

この作品の台本を読んで泣いてしまった。あの時代に、このような良心の人、慈悲の人、まことの仏教者の居たことに。戦前・戦中を軍国少年で過ごした私は、救われる思いをするのである。

今、かの戦争にころがっていた日本の社会状況と同じだという危機感を持たざるを得ない。是非、この映画をご覧いただいて、悲惨な過ちをくりかえすことになる悪縁を潰しましょう。



兵戈無用（ひょうがむよう） 武器も兵隊もいらない

鈴木君代 真宗大谷派（東本願寺）僧侶・シンガーソングライター

いのち、非戦、愛をテーマにした自作曲を、京都市内のライブハウスや全国の寺院でライブ活動を続けている。